

1 単 元 名 空 気

2 指導要領の目標と内容

(1) 目 標

身近な自然の事物・現象に親しませ、それらを見たり確かめたりさせて、事物の特徴及び変化の様子に気付かせるようにするとともに、自然に接していく楽しさを味わわせる。

(2) 内 容

空気を入れ物の中に閉じ込めたり、水の中に入れたりさせながら、身の回りには空気があることに気付かせる。

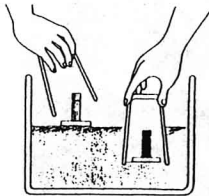
3 活 動 例

コップの中に空気が入っていることに気付かせる。

例1 コップを伏せ水の中に沈める。

※ 人形（浮く物）を水に浮かべ、コップをかぶせて沈め、なぜ人形がぬれないのかを考えさせる。

(図1)



(図1) (大日本図書)

例2 コップを傾け泡出しをする。

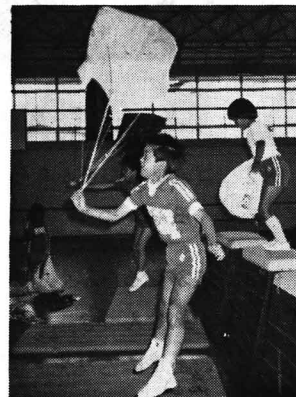
※ 空気存在を泡としてとらえさせる。

身のまわりの空気存在に気付かせる。

(広い場所をつかってダイナミックに活動させる場合)

例1 らっかさんあそび

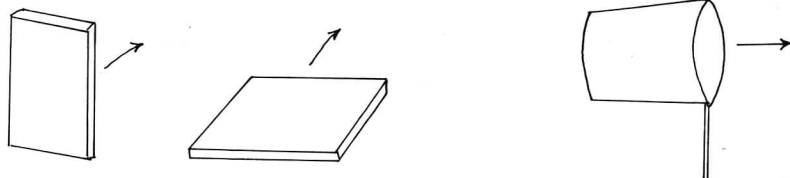
※ 布のふろしきやビルのふろしきを使ってらっかさんを作り、走ったりとぼしたり、とびおったりして遊ばせる。(写真1)



(ひらいた ひらいた)

例2 板リレー、ポリ袋リレーをする。

※ 板を縦にしたり横にしたりして身の前でかかえて走らせ、空気の抵抗を感じとらせる。(図2)



(図2)

例3 空気さがしをしよう。(泡出しきょうそう)

※ 水の中に、身のまわりのいろいろな物を持ちよって沈め、泡出しをさせる。

スポンジ 毛糸 ストロー ポリ袋 ゴム風せんなど